

9C

天平元年(729)
聖武天皇の勅により
行基、鳴川に阿弥陀堂を建立?

大同年中(806-809)ごろ
入唐求法数年の後、空海が鳴川に善根寺を建立
嵯峨天皇の橘嘉智子夫人(檀林皇后/786-850)、皇子誕生を祈るため
善根寺東禅院灌頂堂内に報恩院を建て、智泉にこれを祈願させる

弘仁元年(810)
嵯峨天皇第二皇子春宮正良親王(仁明天皇)誕生

774-835
空海(弘法大師)

小田原諸寺年表

※各寺院の縁起に基づく年代には
裏付けがなく、あまり信頼性ありません。

天長元年(824)
空海、鳴川善根寺明星上で求聞持法を満行

天慶9年(946)9月
岩船寺阿弥陀如来坐像造立(胎内墨書)

寛和元年(985) 横川恵信院に隠遁していた源信が往生要集を著す(天台浄土教)



智泉の母、智縁尼の供養塔
と伝わる石塔(応現寺)

903
空也
972

1033

永観

1111

1133

法然

1212

1290

1303

1421

1477

1486

1619

1734

1868

1881

長久年間(1040-44) このころ教懐が小田原に隠遁、晩年高野山に移り「小田原聖」と呼ばれる(高野聖の祖)

永承2年(1047)7月
義明上人、西小田原山(浄瑠璃寺)
本堂を建立

長和2年(1013)
東小田原山(随願寺)建立

万寿3年(1026) 命禪が忍辱山円成寺に十一面観音を祀る(実質的な開基)

永承7年(1052) 末法の世に入る(釈迦の入滅を紀元前943年としその二千年後)

天喜元年(1053) 藤原頼通、平等院鳳凰堂を建立(定朝、本尊阿弥陀如来坐像を造立)

東小田原山
随願寺

鳴川山
善根寺

天永3年(1112)ごろ
忍辱山円成寺にいた実範が
中川に中川寺成身院を開く

保安3年(1122)
実範、興福寺東西金堂衆のために東大
寺戒壇院受戒式(実範式)一巻を作成

長承2年(1133)
興福寺僧珍也、中川寺堂舎僧坊は七宝
を争い金銀を研く絢爛豪華であり、
高野山の寺領は広大に過ぎ、いずれも
聖人の行いとは言えないと非難

久安3年(1147)2月
摂政藤原忠道の第一子、興福寺権
別当恵信(当時34才)が格下の家
柄の覚晴(当時58才)が別当となつ
たこと不服として鳴珂寺に隠棲

久安3年(1147)
御室仁和寺金剛乘院覚性親王が大聖院
に当時の声明の大家15人を招集して
七十日あまり研究し、声明の流派を、
仁和寺の相應院流、醍醐寺の醍醐流、
中川寺の進流に整理する

応保2年(1162)
中川寺成身院の毘沙門天像造立

承安5年(1175) 源空(法然)が専修念仏(浄土宗)を唱える

文治元年(1185) 守護地頭設置の勅許(鎌倉幕府の成立)

建久3年(1192) 貞慶、笠置寺に隠遁する決意を固め、翌年笠置寺に入る

嘉禎元年(1235)ごろ
高野山三寶院住職正等房勝心(親驗上
人の弟子。親驗上人は大進上人の弟子
で中川寺の声明を「大進上入流」と名
付けた僧侶)が、中川寺住職慈業上人
の理解を得て進流声明の本山を高野山
に移す

文永11年(1274) 文永の役(元寇)
弘安4年(1281) 弘安の役(元寇)

中川寺
成身院

元弘元年(1331) 元弘の変・笠置山合戦・笠置寺焼亡
元弘3年(1333) 足利尊氏、六波羅を破る(鎌倉幕府の滅亡)
建武元年(1334) 建武の新政

応永12年(1405)
のちの興福寺末寺の衆徒・六方衆の棟梁、成身院光宣、
出家して中川寺成身院の僧侶となる

応仁元年(1467)~文明9年(1477) 応仁の乱

文明13年(1481)7月21日
中川寺、古市氏の攻撃を受け本堂のみを残し一山焼亡

文明18年(1486)4月
平野(現在の奈良市緑ヶ丘浄水場)にて中川寺勧進猿樂興行

文明17年(1485) 国人一揆(山城国一揆)

元和5年(1619)7月19日
藤堂高虎、伊賀国に隣接する山城・大和のうち五万石(城和領)を拝領

享保19年(1734) 五藏内志・大和志
「中川寺一名成身院、沙門実範創立、正堂安置愛染明王像、
有二層塔又有地藏石像」

慶応4年(1868)
神仏分離令/興福寺一時廃寺
明治14年(1881) 興福寺の再興が許可

九体阿弥陀堂の謎
嘉承2年建立説
保元2年建立説
嘉承2年中尊先行
保元2年脇仏造立説

保元元年(1156) 京都仁和寺の寛暹が東密忍辱山流を開き円成寺が興隆

保元2年(1157)10月 恵信、興福寺別当に補任される

長寛元年(1163)
興福寺別当恵信、大衆に焼き討ちされ「寺勤」を受けて追放
伊豆に配流される

仁安2年(1167) 重源入宋
仁安3年(1168) 栄西入宋 重源・栄西帰国

治承4年(1180) 治承の乱(南都焼き討ち)
文治元年(1185)8月25日 大仏開眼供養

承久3年(1221)
承久の乱のとき、鳴川善根
寺に京方の軍勢が立てこ
もったので、関東からの軍
勢が堂舎僧坊を破壊

弘安2年(1279)
鳴川山善根寺東禅院灌頂堂(本尊普賢菩薩)
が岩船に移される

弘安8年(1285)
岩船寺本堂を落慶供養する
弘安10年(1287)
岩船不動明王唐崖仏(一願不動)造立
「岩船寺」の銘が初出

善根寺

13世紀末ごろ
随願寺本堂焼失
後に三重塔も崩れる

永仁7年(1299)
猪末行、「わらい仏」造立

14世紀末ごろ
東小田原随願寺の山伏ら
寺を退き岩船寺に移る

嘉吉元年(1441) ころ 坊舎八字、交衆(学僧)12人
嘉吉2年(1442) 岩船寺三重塔建立

岩船寺
(報恩院)

寛永9年(1632) 徳川家による再興

仏像が狭川などに散逸

岩船寺阿弥陀如来坐像が
どこから来たか不明

嘉永元年(1848)
岩船寺、本堂「阿弥陀堂」を再建する

西大寺末となる

廃寺

廃寺

興福寺が一時廃寺となったため西大寺末となる

廃寺

西小田原山
浄瑠璃寺

康永2年(1343)
奈良大門(赤門)を造営
数年後奈良大門焼失

貞和5年(1349)
浄瑠璃寺、随願寺からの統合申し出を断る

文明7年(1475)
浄瑠璃寺大湯屋を修理し
新たに石船を切る

文明14年(1483) 暮れ~翌正月 南山城で畠山義就と畠山政長の争いが激化、こう着状態が続く



寛文6年(1666)
本堂の屋根を桧皮葺から
瓦葺きにする



建仁3年(1203)2月29日
貞慶を導師として千基塔供養を行う

貞応2年(1223)
浄瑠璃寺南大門を造立

承安元年(1171)
十方堂を三間四面に増築し、秘密莊嚴院と
改める(このころ大日如来像造立か)

治承2年(1178)
京都の一条大宮から浄瑠璃寺に
三重塔が移築される

永万2年(1166)
「西小田原九体阿弥陀堂」の名が初出
(僧祐恵田地寄進状案)

保元2年(1157)
浄瑠璃寺本堂を西岸に移し浄土庭園が完成

久安6年(1150)
このころ恵信により浄瑠璃寺が
興福寺一乗院の祈願所となる

長治2年(1105)
浄瑠璃寺中尊阿弥陀如来坐像の納入遷仏

永承2年(1047)7月
義明上人、西小田原山(浄瑠璃寺)
本堂を建立